

シンポジウム開催挨拶

美馬達哉

(立命館大学)

この「マイノリティ・アーカイブスの構築・研究・発信」にお集まりいただきありがとうございます。立命館大学先端総合学術研究科と生存学研究センター（現在は生存学研究所）の美馬達哉です。マイノリティとアーカイブズという二つを結びつけることでどんな化学反応がおきるかわくわくしています。

生存学の紹介は次の立岩真也さんがしてくれると思います。基本的には「障老病異」いうことを中心テーマとして、身体や心身や社会性でのある種のマイノリティとされている人々と関わった研究を行うところです。この催しでは、その研究の中で収集されたさまざまな資料のアーカイブズも、興味のある方にはお昼休みに見ていただく企画もあります。

そして、このシンポジウムでは、単に研究をしていくのではなくて、集まった資料をどうやって使いやすくアーカイブズとして構築していくか、さらにはそれをどうやって社会に発信していくか、を考えていきます。さらにいえば、「障老病異」というマイノリティの人たちに届

くような発信というものはどういうものかという問題まで触れていきます。そのために、みなさんのお知恵を拝借したい、というのが主眼です。

中身としては、「さがす・あつめる」「たもつ・つたえる」「つかう・いかす」というキーワードを立てていますが、すべてが重複していることはもちろんです。さまざまな研究の事例を発表していただくのと同時に、アーカイブ化の実例、あるいは同じような社会的なマイノリティの方々に焦点を絞った、あるいは弱者に焦点を絞ったアーカイブズの紹介をしていただくという多彩なものとなっています。私たちは生存学のアーカイブズを「書庫」と呼んでいるのですが、お昼にはその見学をしていただこうと思います。その時にはポスターで、私たちが行っている研究の一端をご紹介させていただきます。

最初に、生存学研究センター長の立岩真也から、この紹介を兼ねて全般的なお話をさせていただきます。よろしく願いいたします。